

13.08.15～20 涸沢～黒部周遊山行報告書

M3 荒川 晶

①コースタイム

1日目…8/15(木)

涸沢 06:20～09:35 北穂高小屋 10:20～12:50A 沢のコル 13:05～長谷川ピーク 13:30～南岳小屋 15:10
(行動時間 8 時間 50 分・幕営・晴れのちガス/夕刻雨)

2日目…8/16(金)

南岳小屋 06:10～南岳 06:20～08:50 槍ヶ岳山荘(槍の穂先往復)11:00～樺沢岳 14:45～双六小屋 15:20
(行動時間 9 時間 10 分・幕営・晴れ)

3日目…8/17(土)

双六小屋 04:50～06:00 双六岳 06:15～07:30 三俣蓮華岳(以下、黒部五郎へサブザックで往復)08:00～
09:15 黒部五郎小舎 09:30～(圏谷ルート)～11:30 黒部五郎岳 12:00～(稜線ルート)～13:40 黒部五郎小舎
14:05～15:35 三俣蓮華岳 15:50～16:40 三俣山荘
(行動時間 11 時間 50 分・幕営・快晴のち曇り)

4日目…8/18(日)

三俣山荘 05:45～07:15 鷲羽岳 07:35～08:35 岩苔乗越 08:45～祖父岳 09:35～10:00 雲ノ平(散策)13:45～
高天原峠 15:15～16:15 高天原山荘 16:45～17:00 高天原温泉 18:15～龍晶池 18:35～高天原山荘 19:10
(行動時間 9 時間 30 分(高天原山荘まで)+1 時間程度・小屋素泊・曇りガスのち晴れ)

5日目…8/19(月)

高天原山荘 04:50～06:35 ロープ取り付き点 06:45～08:50 温泉沢の頭 09:00～09:45 水晶岳 10:05～10:35
温泉沢の頭 10:50～12:55 赤牛岳 13:20～4/8 の標識 15:10～17:50 奥黒部ヒュッテ
(行動時間 13 時間・幕営・快晴)

6日目…8/20(火)

奥黒部ヒュッテ 07:15～09:45 平の渡渡渉点 10:20～10:40 平の小屋 11:00～14:55 ロッジくろよん 15:20
～ロープウェイ黒部湖駅 15:35
(行動時間 8 時間 20 分・曇りのち雨)

②総論・反省など

・ルート選定

2 年前に涸沢から槍を往復した。天候にも恵まれ、奥穂・北穂など、涸沢周辺の山々とは違った展望が広がっていた。双六・鷲羽・野口五郎、そして鹿島槍や五竜、立山の山々が眼前に連なっている姿には深い感動を覚え、卒業までにいつかはこの稜線を歩いてみたいと思っていた。

昨年の夏は常念山脈を縦走し、色々失敗はあったが単独でのテント泊の感覚を少し掴んだ。今年の春～初夏にかけての山行で食糧計画や荷物の軽量化などに検討を加え、1 週間の縦走なら出来るような気がしてきた。そして、夏休み。公衆衛生学実習で海外に出ていたことや、カリキュラムの変更による夏休

み短縮の煽りを受けたが、何とか 10 日ほど山に使える日程を作った。涸沢入所のことも考えると縦走に使える日程は 6 日間。

槍から三俣方面まで出て、黒部五郎を往復してさらに雲ノ平まで足を伸ばそう、というプランがいつの間にか頭の中に出来あがっていた。最後まで決まらなかったのが、雲ノ平からの予定である。当初は雲ノ平を散策して 1 泊したのち、薬師岳に立ち寄りながら折立に下山しようと思っていたが、地図を見ると、「高天原温泉」と「読売新道」の 2 つの文字が目に残った。山中にある秘境の温泉にはあこがれるし、またどこかの雑誌で読んだ赤牛岳を紹介する記事が印象に残っていた。また、平の渡について調べてみると中々興味深いことが分かり、最終的にこのルートを選択した。ただ雲ノ平に宿泊するか、高天原温泉に泊まるかは現地に行かなければ分からないと思い、計画書段階では敢えてどちらとも決めなかった。また、槍までのルートで、キレットを避けるべきか否か迷った。重い荷物を背負っての縦走の初日となり、不安はあったが、学生時代に越えてみなければ後悔すると思い、今回思い切って通ることにした。

・出発まで

山行を無事に終えたからこそ言えるが、出発時はベストコンディションではなかった。8/9 に海外実習から帰国し、8/11 夜に出発。この頃から喉の調子がおかしかったが、涸沢に登れば治るだろうと思いそのまま登ってきてしまった。しかし到着しても体がだるく、その晩熱を測てみると 37 度少々あった。診療所の業務をこなすのすら精一杯、といった状況だったが、入所されていた先生方が PL 顆粒や手持ちの薬等を処方して下さり翌日には平熱に戻った。2 日ほどゆっくりと静養し、病み上がりで体力が万全ではなかったが、体は軽かったので、予定通りのルートで山行実施を決断。荷物が重たかったこともあったが、キレットを始め最初の 2 日間のペースが遅いのはこのためである。

・縦走後

最終日を除いて、ほぼ全日晴れ間に恵まれたのは本当に幸運だった。今回の山行を予定通りやり通せたのも大方はこの為であるような気がする。大キレットの他、雲ノ平や五郎のカール、高天原温泉の心地よさや読売新道の森閑とした雰囲気、平の渡など、各日とも忘れられない思い出となる光景と巡り会えて、充実した山行とすることが出来た。特に、計画書に素晴らしいコメントを頂きました赤木先生、また診療所内での準備中、あれこれアドバイスを頂いた前野先生には厚く御礼申し上げます。

③1 日目(涸沢～北穂～南岳)

この日はキレットを越えられれば良いと思っていたので、ヒュッテで朝食を頂いて 06:00 過ぎ、快晴の空の下出発。C1 の後輩たちを残してきてしまったのが悔やまれるような良い天気の下、北穂を目指してゆっくりと登る。軽量化に努めたとはいえ、幕営装備一式と、6 日分の食糧を背負ったザックは、慣れていない体には相当重く、結局地図記載のコースタイムとほぼ同等の時間が掛かった。

北穂の山頂は今回で 5 度目で、すっきりと晴れたのは 2 回目である。C1 の頃寺脇先生に連れて行って貰って以来、久々に槍を望むことが出来た。まだ体調が本調子ではないせいか、結構疲れてしまったので、キレット通過に備えて小一時間ほど休憩。10:20 頃出発する。北穂からの下りは急峻なザレ場が多く、滑りそうになる体を必死で支えながら慎重に下る。下手な岩場・鎖場よりも、つつい転びそうになる

この下りの方が自分としては辛かったし、明らかに周りの縦走者よりペースが遅くてもどかしかった上に、南岳方面からの縦走者が多く、行き違いに気を遣う場面もあり、この時点で結構バテバテになってしまった。

飛騨泣きの手前の小さな平地で滝谷を望みながら少々休憩を入れる。飛ぶ鳥も落とすという滝谷の岩壁をしばし鑑賞する。クライマーの姿が何人か見えた。

飛騨泣きの鎖場は足場はしっかりしており、3点支持で問題なくクリア出来たが、下りなので足場が見えず苦労した箇所が何箇所かあった。その後も岩場とザレ場の交錯する場所が続き、気を抜くことが出来ない箇所が続く。行き違い待ちなどもあり、A沢のコルに着いたのは12:50。何と、北穂から換算して、標準タイムの2倍の時間が掛かってしまった。

ここでしばらく休憩を入れて、長谷川ピーク方面へ。岩場は今までのコースほどはきつくなく、その後南岳手前までのなだらかな縦走路は快調に歩く。梯子の手前では、明日キレットを越えてさらに奥穂に行き前穂をピストンし、明後日には西穂まで縦走する予定で、早朝通過となるためキレットの下見に来た、という年配の方に出会った。長い梯子を2つ乗り越え南岳側の岩場・ザレ場を登り切って、ようやく南岳に到着。時刻は15時を過ぎたので、ここで幕営することにした。

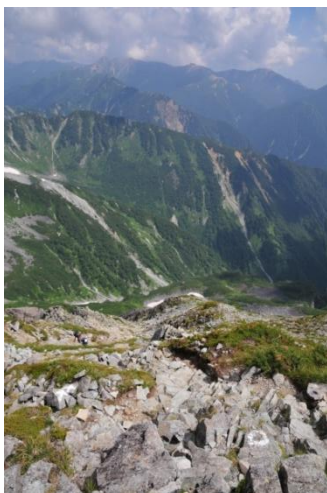
小屋の中ではWifiが飛んでいるようで、小屋内から接続を試みたが繋がらなかった。小屋周辺はガスに包まれ始め、ひと眠りして食事を終えた18:00過ぎから雨が降り出した。縦走初日とあり色々なことが頭に浮かんでは消えてゆきを繰り返し、遅くなるまで寝付けなかった。



北穂へ向かう登山道より。濁沢岳(右)と奥穂高岳(左)。山容はよく似ている。



北穂からの展望。大キレットの向こう側に槍が聳える。南岳～槍の眺めが素晴らしいが、個人的には、穂高の陰しさを一望できる奥穂からの展望の方が好き。



(左):大キレットの始めはガレ・ザレの続くジグザク道を急下降する。足元も崩れやすく歩きにくい。



ペンキマークも多く注意して歩けばガスっていても道迷いの心配はない。写真に写っている、「北ホあと 200m」は高度差を指すとの説もある。ここまで 30 分も掛かってしまった。



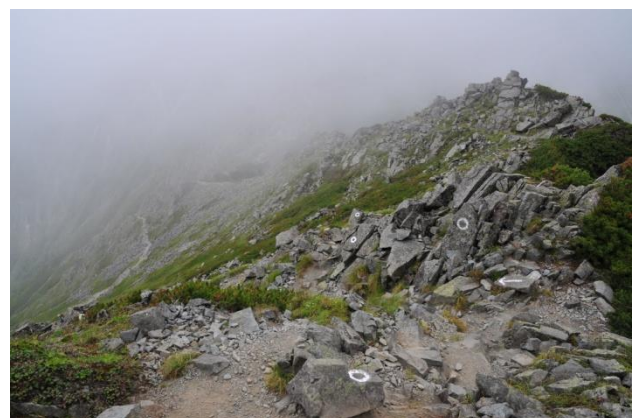
キレット核心部の飛騨泣き手前の岩稜帯。足元が滑り、とにかく通過が大変だった。



飛騨泣きの鎖場。足元は切れ落ちていて通過には慎重を要するが、基本となる三点確保が出来ていれば難なく通過出来る箇所であった。しかしここまでの下降で体力を消耗し、既にバテバテであった。



ほうほうの体で辿りついた A 沢のコル。10 人ぐらいは休憩出来るだろうかというスペースがあった。時間を気にしながら休憩。



長谷川ピークを過ぎると歩きやすい道が続く。
(左): 長谷川ピーク手前の岩場。見た目ほどは高度感はないが、慎重に通過した。



ようやく、南岳の登りに入る。中央の梯子がランドマーク。



南岳手前より、歩いてきた稜線を振り返る。確かに南岳まで来たのだという実感が湧いてきた。

④2 日目(南岳～槍ヶ岳～双六小屋)

天気予報通り、夜半過ぎには雨は止み、朝起きてテントの外を望むと綺麗な星空が広がっていた。これから先宿泊予定の場所を考えると、ご来光を拝めそうなのはここだけだったので、朝は食事だけを済ませて山頂方向へ向かいスタンバイ。ご来光自体は、少し雲が多くいまいちであったが、その後、朝日を受けて輝くキレットの威容は素晴らしかった。

6 時頃に南岳を出発し、南岳・中岳・大喰岳と快調に通過し、3 時間ほどで槍ヶ岳山荘へ。このルートは 2 年前に歩いたことがあったので懐かしかったが、当時の記憶よりもゴロ状の岩場が多くて少々苦労した。一服して、槍の穂先を往復。天気も良好で、2 年前と同様素晴らしい眺めを堪能。当時はなかった新しい看板があるのを発見した。慈恵医大の診療所に挨拶に伺うと、偶然にも双六小屋の富山大学の診療所の学生の方が見えていた。研修医 1 年目の Dr. と少々話をしたが、当山岳部とは違い医師主体での運営が行われているようだった。

行動食だけでは少々物足りないので山荘でラーメンを食べて出発。西鎌尾根を歩く。槍平小屋方面から登ってくる登山者の姿が良く見える。千丈乗越までは一気に下り。思いのほか早く着いたが、そこからは小さな登り下りを繰り返す。後ろを振り返れば槍ヶ岳とそこから伸びる北鎌尾根の眺めが素晴らしく、また右を見れば硫黄尾根の奇観と、硫黄沢に残る雪渓が独特のコントラストを作り出しており眺めていて飽きない光景であった。自分とほぼ同じようなペースで歩くグループが他に 2.3 組あったが、対向する人にはさほど出会わなかった。樺沢岳で小休止を入れて、ジグザグ道を下ると双六小屋に到着。テント場は大賑わいであったが、平坦でスペースは広いので難なく場所を見つけて幕営出来た。ひと段落着いた所で富山大の診療所に挨拶に伺う。学生はグループ単位で入所し、1 人を残して毎日ほぼ全員が槍や黒部五郎、鷺羽、水晶までピストンして回るのだとか。後ほど入所された Dr. の方とも話も弾み、夕食まで御馳走になってしまった。次に富山大学の方が涸沢診療所に見えたら盛大にもてなして下さい、と書いたら、数年前に只左 Dr. が縦走された際の報告書にも同内容の記載があったので笑ってしまった。富山大の皆さま、改めて感謝の意を申し上げます。明日は行程が長くなりそうなので早めに就寝。



常念乗越方面からご来光。水平線上に雲があり、モルケンロートはお預けだった模様。



朝日を浴びる大キレット。北穂高岳の山容は素晴らしい。



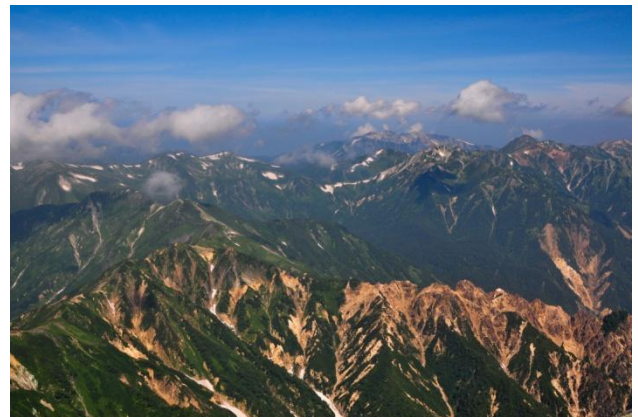
南岳小屋と大キレット。南岳山頂より。



大喰岳より槍ヶ岳山荘と槍の穂先。



槍の穂先より、大喰岳・中岳・南岳と穂高連峰



同じく穂先より硫黄尾根、三俣蓮華、鷲羽岳、薬師岳などの展望



(左)記念写真も撮影してもらおう。

遠景には野口五郎岳・鹿島槍・五竜岳・唐沢岳など。



槍ヶ岳山荘から、これから歩く稜線を眺める。心地よい縦走が出来そうだ。



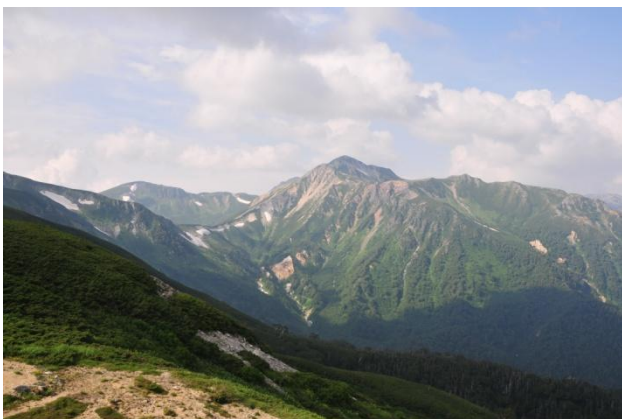
硫黄乗越辺りまで来ると、槍と北鎌尾根が本当に美しい。多くの人がこの虜になるのも頷ける。



奇観の硫黄尾根と、硫黄沢に残る雪渓。道中目を見張る光景であった。



樺沢岳から双六小屋までの下り道、双六岳と双六小屋、双六池、そのテント場を一望。



双六小屋は鞍部にあるため槍は見えないが、鷲羽岳の展望が素晴らしい。富山大の方と生ビールを飲みながら。



富山大の診療所で皆さんと。この日はDr.2人が入所され、宴会モードの中お邪魔させて頂いた。夕食も御馳走になり感謝である。



・ 槍ヶ岳頂上から北方向の展望

中央手前が硫黄乗越と硫黄尾根

後方、矢印が付いている順番に、左から双六岳・三俣蓮華岳・祖父岳・薬師岳・鷲羽岳・水晶岳・赤牛岳・野口五郎岳です。